

2024/9/8

ルカの福音書 講解メッセージ②②

『ルカの福音書 9章 1-21節 十二弟子に力と権威を与える』

### ■十二弟子に力と権威を与える

「イエスは、十二人を呼び集めて、彼らに、すべての悪霊を追い出し、病気を直すための、力と権威とをお授けになった。」(ルカ 9:1)

「悪霊を追い出す」とは、現代の言葉にするなら「偽りの情報を追い出す」ということです。イエス様は十二弟子に、偽りの情報を追い出し、心の病気や体の病気を直すための力と権威とをお授けになりました。「力と権威を授けた」とは、神のことばを語る賜物を与えたということです。イエス様は、ことばを使って、悪霊を追い出し、病をいやされました。神のことばに権威があるのです。

医者には多くの薬の中から、患者の症状に適した薬を選んで処方箋を書きます。同様に、聖書にも多くの御言葉がありますが、相手にどのような御言葉を語ればよいかを判断する賜物をお与えになったのです。特にこの時代には、新約聖書はまだありません。ですから、その都度神様が語るべき言葉を与えてくださいました。現代は聖書があり、神のことばは完結しています。ですから、今は、私たちも神の賜物によって、友達に神のことばを語るすることができます。それが神の与える力と権威です。

「それから、神の国を宣べ伝え、病気を直すために、彼らを遣わされた。イエスは、こう言われた。「旅のために何も持って行かないようにしなさい。杖も、袋も、パンも、金も。また下着も、二枚は、いりません。」(ルカ 9:2-3)

神の国のために働く者を、神は必ず助けてくださると、イエス様は教えておられます。神の国のために生きると迫害や苦しみを経験します。どのような苦しみも、金銭的な不安も、神は必ず助けてくださいますから、心配する必要はありません。

「どんな家に入っても、そこにとどまり、そこから次の旅に出かけなさい。人々があなたがたを受け入れない場合は、その町を出て行くときに、彼らに対する証言として、足のちりを払い落とすなさい。」十二人は出かけて行って、村から村へと回りながら、至る所で福音を宣べ伝え、病気を直した。」(ルカ 9:4-6)

福音を語っても、残念ながらそれを受け入れない人もいます。その時、福音を語ったことを証言するために「足のちりを払い落とさない」とは、どういうことでしょうか。

まず大切なことは、神のことばを届けるのは、神ご自身であるということです。神はすべての人の心に 24 時間語りかけてくださっています。また、人を通して語り、聖書を通して語り、被造物を通して語っておられます。足のちりを払い落とすとは、「確かに私はあなたに語りましたよ」という神からのメッセージなのです。ですから、「私は神のことばを聞かなかった。だから信じなかった」という言い訳は通用しません。神はありとあらゆる手段を通して、ご自分を明らかに示しておられます。

「それゆえ、神について知られることは、彼らに明らかです。それは神が明らかにされたのです。神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。それゆえ、彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。」（ローマ 1:19-21）

## ■なぜ語るのか

「さて、国主ヘロデは、このすべての出来事を聞いて、ひどく当惑していた。それは、ある人々が、「ヨハネが死人の中からよみがえったのだ」と言い、ほかの人々は、「エリヤが現れたのだ」と言い、さらに別の人々は、「昔の預言者のひとりがよみがえったのだ」と言っていたからである。ヘロデは言った。「ヨハネなら、私が首をはねたのだ。そうしたことがうわさされているこの人は、いったいだれなのだろう。」ヘロデはイエスに会ってみようとした。」

（ルカ 9:7-9）

イエス様のうわべを見ても、イエス様が神であると知ることができません。当時の人々は救い主を待ち望んでいました。ところが、多くの人がイエス様の働きを知りながら、ヘロデのように当惑するばかりで、誰もイエス様が救い主であると気づかなかったのです。つまり、人間の知恵や力で神を知ることはできません。神を知ることができるのは、神が私たちに教えてくれるからです。

「さて、使徒たちは帰って来て、自分たちのして来たことを報告した。それからイエスは彼らを連れてベツサイダという町へひそかに退かれた。ところが、多くの群衆がこれを知って、ついて来た。それで、イエスは喜んで彼らを迎え、神の国のことを話し、また、いやしの必要な人たちをおいやしになった。」

(ルカ 9:10-11)

イエス様は、ご自分のところに来た群衆を、喜んで迎えられました。イエス様が、彼らに一番届けたかったメッセージは、神の国が来たということです。神の国は、死も苦しみもない、神がおさめる国であり、神は私たちがそこに移住させるために来られました。イエス様は、集まった群衆に、喜んで神の国のことを語りました。

なぜ語るのでしょうか。それは、私たちが神の国に入るには、私たちが信じて受け取るという選択をしなければならないからです。自ら選択して、救いの船に乗らなければ、神が強制的に連れていくことはありません。なぜなら、人は人格を持っているからです。人格とは、徹底した自由です。人は神に似せて造られていており、人格を持っています。神は、私たちに人間をやめさせて、ロボットのようにただ言うことを聞く存在にしたいわけではありません。神が、神の国のことを語り、いやしを行っておられるのは、私たちが自ら神の国を選択できるようになるためなのです。

「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。」

(ピリピ 2:13-14)

神は、私たちに語りかけて選択させることによってことをなすのであって、強制はしないということです。ですから、神からの願いが来たならば、それを聞いて、つぶやかずに実行しましょう。神からの思いなのか、肉の思いなのか、選択に迷う時、判断基準の一つは、それが愛に根差しているかどうかです。神の思いは愛に根差しています。

私たちは誰でも信じれば神の国に移住できますが、信じなければ移住できません。その選択ができるように、イエス様は喜んで人々に語りかけられました。

## ■チャレンジを与える

「そのうち、日も暮れ始めたので、十二人はみもとに来て、「この群衆を解散させてください。そして回りの村や部落にやって、宿をとらせ、何か食べることができるようにさせてください。私たちは、こんな人里離れた所にいるのですから」と言った。しかしイエスは、彼らに言われた。「あなたがたで、何か食べる物を上げなさい。」彼らは言った。「私たちには五つのパンと二匹の魚のほか何もありません。私たちが出かけて行って、この民全体のために食物を買うのでしょうか。」それは、男だけでおよそ五千人もいたからである。しかしイエスは、弟子たちに言われた。「人々を、五十人ぐらいずつ組にしてすわらせなさい。」弟子たちは、そのようにして、全部をすわらせた。するとイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて、それらを祝福して裂き、群衆に配るように弟子たちに与えられた。人々はみな、食べて満腹した。そして、余ったパン切れを取り集めると、十二かごあった。」(ルカ 9:12-17)

神は私たちの信仰を訓練するために、チャレンジを与えます。この時、イエス様は弟子たちに、5000人以上いる群衆に食事をあげるようにというチャレンジを与えました。弟子たちは、現実を見て、不可能だとつぶやきました。しかし、それでもイエス様の言葉を信じて従ったとき、奇跡が起きたのです。5つのパンと2匹の魚で5000人以上の人たちが、食べて満腹し、さらに12かご分のパンがあまったのです。私たちも、たとえ不安があったとしても、神のことばに従うなら、イエス様は、私たちの必要を満たすだけでなく、さらに多くのもので与えてくださいます。神は私たちの信仰を訓練したいと願っておられるのです。

## ■信仰は神からの賜物

「さて、イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちがいっしょにいた。イエスは彼らに尋ねて言われた。「群衆はわたしのことをだれだと言っていますか。」彼らは、答えて言った。「バプテスマのヨハネだと言っています。ある者はエリヤだと言い、またほかの人々は、昔の預言者のひとりが生き返ったのだとも言っています。」イエスは、彼らに言われた。「では、あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」ペテロが答えて言った。「神のキリストです。」するとイエスは、このことをだれにも話さないようにと、彼らを戒めて命じられた。」(ルカ 9:18-21)

イエス様が黙っているように言われたのは、イエス様が神であることは、人が教えることではなく、神が教えることだからです。

「イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」するとイエスは、彼に答えて言われた。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」(マタイ 16:15-17)

ヘロデ王のことからもわかる通り、人間の知恵や力で神を知ることはできません。神を知ることができるのは、神が私たちに教えてくれるからです。神様は、どのように教えるのでしょうか。

私たちは常に神からの呼びかけを聞いています。その呼びかけに応答すればだれでも救われます。私たちはもともと死んでいたのですが、神のことばを聞いて生きる者となりました。死から命に移され、永遠のいのちを持つようになったのです。それは潜在意識でのやり取りなので、自分ではいつ救われたのか気づきません。しかし、救われた者は、永遠のいのちを与えられ、霊のからだを着せられました。つまり、救われた人は、すでにいのちの世界に入っているのです。聖霊の助けによって、神のことばを信じることができ、キリストを信じられるようになるのです。彼らがキリストを信じることができなかったのは、彼らが永遠のいのちをまだ持っていなかったからです。

「その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」(ヨハネ 17:3)

永遠のいのちを持ったら、イエス・キリストを信じるようになり、救いの自覚に至るようになります。人は、永遠のいのちが与えられることで、イエス・キリストを知るのである。したがってイエス・キリストを信じている者は、すでに永遠のいのちを持っているのです。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことなく、死からいのちに移っているのです。まことに、まことに、あなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。」(ヨハネ 5:24-25)

ですから、イエス・キリストを信じる信仰は神からの賜物です。信じることができない人は、納得したがりません。イエスの弟子のピリポもそうでした。

「あなたがたは、もしわたしを知っていたなら、父をも知っていたはずですが。しかし、今や、あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見たのです。」ピリポはイエスに言った。「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。」（ヨハネ 14:7-9）

つまり、イエスは世の始まる前から知られていた神だということです。その神が終わりの日の約束を成就するため、救いを成就するために来られたのが、イエス・キリストです。

このことを理解したペテロは、このように書いています。

「キリストは、世の始まる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために、現れてくださいました。」（I ペテロ 1:20）

「あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。」（I ペテロ 2:21）

## ■イエス様の称号

私たちのために来られた救い主は、私たちに生き方の模範を示してくださいました。イエス様は、人々を救うだけでなく、どう生きればいいのかの模範を示すために来られたのです。

イエス様には、キリストという称号が与えられました。イエス・キリストとは、「イエスはキリストである」ということです。この称号には、終わりの時に来る王、つまり、救済者という意味があります。救世主、救済者、終わりの時の王を指す称号です。私たちは、永遠のいのちが与えられたことで、それを知ることができるようになったのです。

さらに、イエス様に与えられた称号は、他にもあります。「ダビデの子、神の子」、これは王を意味する言葉です。つまり、イエス様には、王としての称号も与えられました。その他にも、イエス様には「人の子」という称号も与えられました。聖書に約束された、この世の悪を終わらせて、新しい世界を実現する方、それが「人の子」です。聖書を読むと、イエス様のことを、人の子と呼んだり、ダビデの子と呼んだりしているのは、そういうわけなのです。

そして、イエス様に与えられたもっとも重要な称号は、「主」です。当時の人々は、「神の名前をみだりに口にしてはならない」という戒めに従って、神様のことを「主」と呼んでいました。人々は、神を「主」として礼拝していたのです。つまり、イエス様は礼拝の対象となったということです。イエス様は、「私を見ている者は父なる神も見ている」と言われました。つまり、「主」という言葉の中には、父と子と聖霊三位一体の神が含まれていたのです。

「すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」(ピリピ 2:11)

「父祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。このキリストは万物の上であり、とこしえにほめたたえられる神です。アーメン。」(ローマ 9:5)

イエス・キリストが主であるから、イエス様をほめたたえることで、父なる神がほめたたえられるのです。イエス様は父なる神と同じ神、主です。これこそが神に与えられた称号です。

これは、永遠のいのちが与えられたことで、聖霊様の働きによってわかるようになったことです。永遠のいのちが与えられたことで、私たちは聖霊の宮となったと聖書は教えています。父なる神、イエス様、聖霊様が三位一体の神であり、聖霊によるのでなければ、誰もイエスは主であると告白できません。これは、人が努力して知ったわけではありません。神があなたを選び、あなたを救ったのです。

イエス・キリスト以外に救いの名はありません。それ以外に神の名はなく、私たちはその方を主と呼びます。父なる神、聖霊も含まれての主です。

これは神が教えることだから、誰にも話さなくていいとイエス様は言われました。それは、神が教えることだからです。ですから、信仰は神からの賜物なのです。